

HPをリニューアルしました

情報提供の充実に向けて、HPをリニューアルしました。近日中に英語版（一部）も公開します。シンポジウム、研究会、ワークショップなどのお知らせもご覧いただけますので、アクセスをお待ちしています。

<http://riwac.jp/>



メディアへの発信とネットワーク化

研究所は多様なメディアからの取材に対応しています。調査研究の分析から明らかになった事実を発信するとともに、女性とキャリアについてさまざまな立場の方々と交流しながら考え、女性とその能力を全面的に発揮できる社会の実現を目指します。



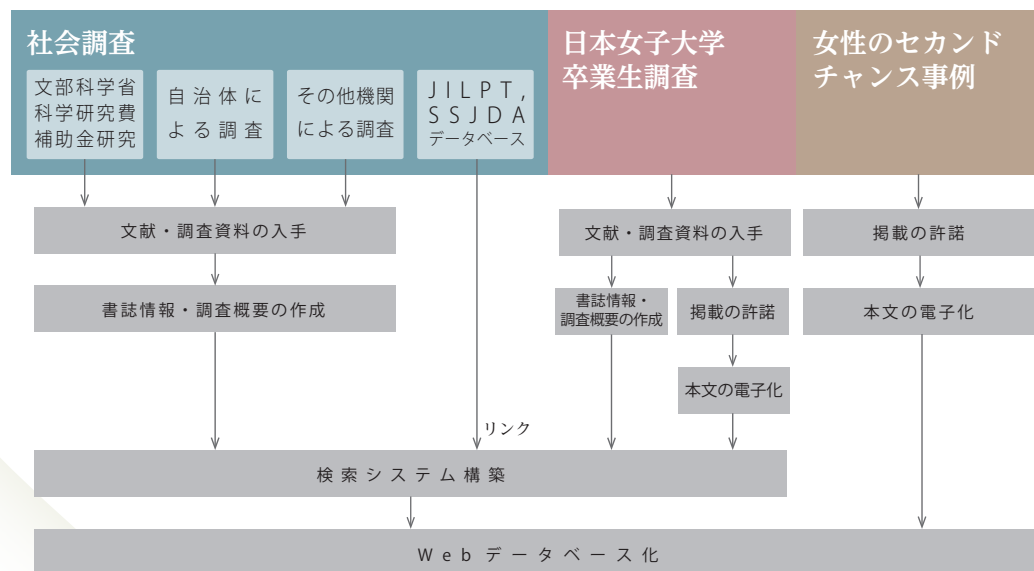
ドイツ経済新聞 ハイデ・ダナさん（左） 現代女性キャリア研究所所長 大沢 真知子（右）

RIWAC-DA (リワック・データ・アーカイブ)

日本女子大学現代女性キャリア研究所では、国際婦人年（1975年）以降に実施された、女性とキャリア（生き方）に関する社会調査を多数収集し、その詳細書誌をデータベース化しネット上で公開しています。レポートや論文作成、ゼミ報告などに、多様な社会調査をぜひご利用ください。

<http://search.riwac.jp/>

所蔵件数 約 1500 件 (2014年3月現在)



「戦後日本の女性とキャリアに関わる文献・資料調査とデジタル保存」文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（2008-2010年度）

「女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究」文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（2011-2015年度）

紀要『現代女性とキャリア』

年に一回、紀要『現代女性とキャリア』を発行しています。論文のほか当研究所主催の講演会やシンポジウムの記録、研究所の事業活動に関する報告を収録しています。また、投稿論文も受け付けております（詳細は研究所HP参照）。

紀要をご希望の方は、切手（1冊240円、2冊以上は要問合わせ）を貼った返信用封筒（B5サイズの入る大きさ）を当研究所へお送りください。



お願い

当研究所では、女性とキャリアに関する社会調査のデータアーカイブ (<http://search.riwac.jp/>) を公開しています。女性とキャリアに関する社会調査資料をお持ちの方は、ご協力をお願いいたします。

News Letter

Research Institute for Women and Careers

RIWAC
日本女子大学
現代女性キャリア研究所

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1
TEL 03-5981-3380 FAX 03-5981-3381
E-mail riwac@fc.jwu.ac.jp URL <http://riwac.jp/>

シンポジウム「女性の活躍推進に、いま何が求められているのか」

2013年12月21日(土)開催

基調講演にシカゴ大学の山口一男先生をお招きし、パネリストとして、経済産業省経済社会政策室の坂本里和室長、法政大学の武石恵美子先生、政策研究大学院大学の黒澤昌子先生のご参加をいただきました。

シンポジウム第一部では、「ダイバーシティと女性の活躍推進に、いま何が求められているのか—欧米の倫理・制度、日本の現状と問題—」という演題で、山口先生にご講演いただきました。山口先生は分析された統計データを具体的に提示されながら、性別と強く関連する企業内トラッキングが存在すること、管理職昇進率の男女差は大きく、それにともなう所得格差も大きいこと等を指摘され、企業が「女性に対する統計的差別的経済的不合理」を認識することが重要である、と主張されました。さらに、女性の活躍を推進するために、「最大労働時間制限、間接差別的より包括的な禁止、正規雇用・非正規雇用の真の均等待遇の実現」といった、具体的な施策を提言されました。

この基調講演を受け、第二部では「女性差別の経済的コストを考える」というテーマで、パネリストの先生方にそれぞれの専門分野から報告をいただきました。まず、当研究所の大沢真知子所長が、「女性とキャ

リアに関する調査」結果から見てきたこと」というタイトルで、女性たちがおかれている状況について報告し、ついで、経済産業省の坂本里和室長より「成長戦略としての女性活躍推進」というタイトルで、「なでしこ銘柄」など国や経済産業省の新たな取り組みについて報告がなされました。法政大学の武石恵美子先生は「女性の活躍を阻害する職場の課題」というタイトルで、職場管理の観点から問題提起をされ、政策研究大学院大学の黒澤昌子先生は「女性の能力開発：女性の能力を生かすために」というタイトルで、企業内訓練等の問題について議論を提示されました。

その後、報告者が一堂に会し、フロアからの質問も交えて、「なぜ、ダイバーシティが日本企業ですまないのか」「限定正社員の問題をどのように考えたらいいのか」等、熱心な議論がなされました。

当日は84名の参加を得ましたが、参加者も研究者、労働者、政策担当者、学生など多岐にわたっており、終了後のアンケートには「日本のおかれている状況と基本的課題が理解できた」「説得力にあふれ、力強いメッセージに感動した」「負のスパイラルを変えるには、三位一体(本人、政策、会社)のバランスが必要だと感じた」など、熱心な感想が寄せられました。その後、学内で開かれたささやかな懇親会にも、多数のご参加をいただき、心のこもった交流がなされました。

なお、このシンポジウムの記録は、来年度の当研究所の紀要、「現代女性とキャリア」第6号に掲載する予定です。



研究会報告

「職場における男女間格差：日本の一大企業の計量分析的ケーススタディ」

2013年8月1日(木) 講師：加藤隆夫先生

米国コルゲート大学の加藤隆夫先生をお招きして、研究会を開催しました。加藤先生のご専門は労働経済学で、一橋大学経済研究所の客員教授として来日中でした。長時間勤務の有無が男女間格差の要因となっていることを、企業データを用いた緻密な分析によって問題提起された、大変刺激的で興味深い内容でした。当日は、学内のみならず、学外からの参加も得て、20名以上の研究者が集まりました。フロアからも積極的な質問がなされ、大変充実した研究会となりました。加藤先生に改めてお礼を申し上げるとともに、当日参加されたみなさまにも、研究交流がもてましたことをお礼申し上げます。

「ホワイトカラー正社員の管理職割合の男女格差の決定要因について」

2013年9月17日(火) 講師：山口一男先生

米国シカゴ大学の山口一男先生をお招きして、研究会を開催しました。ご報告テーマの副題は、「女性であることの不当な社会的不利益とその解消施策について」。日本の管理職の女性割合の低さとその改善が遅いという現状を踏まえ、管理職割合の男女格差が何に起因しているのか、大変精緻な分析に基づいたご報告をいただきました。

当日は学内・学外の研究者やメディアの方など、20名ほどのご参加をいただき、先生からのご報告のあと、活発な質疑応答が行われました。

なお、その日のご報告内容の詳細は、RIETI(経済産業研究所)のサイトをご覧ください。



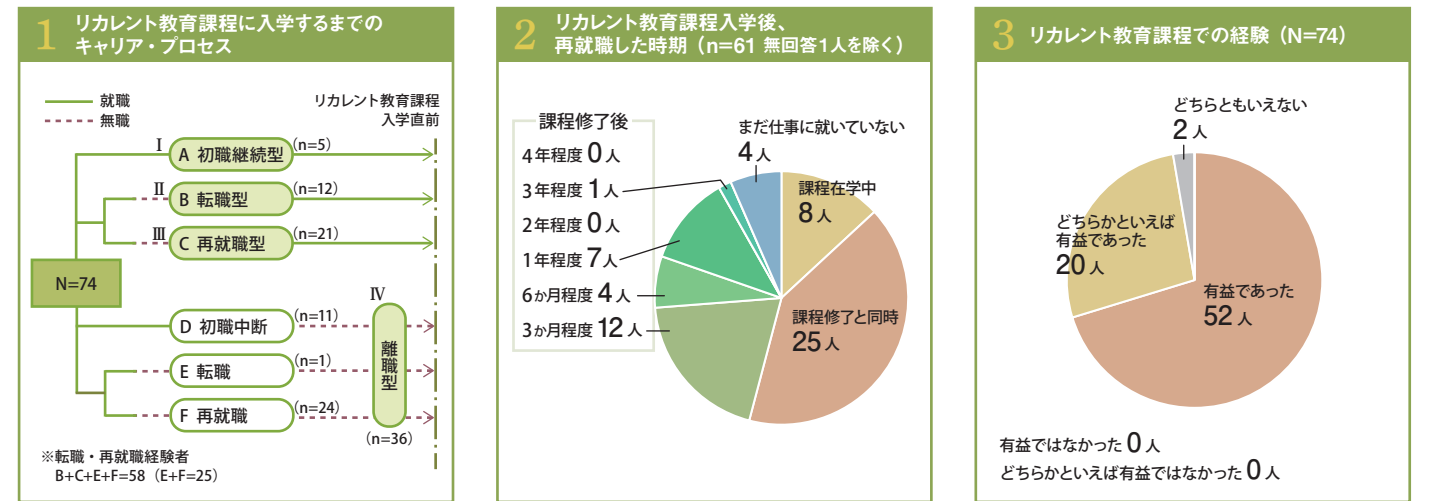
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(2011~2015年度)

プロジェクト名	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
「女性とキャリアに関する調査」	Web調査・分析・報告書発行				
リカレント教育課程修了生調査 「女性のキャリア支援と大学の役割に関する調査」		アンケート調査・分析・報告書発行			プログラム評価
			インタビュー調査・分析・報告書発行		
			新プログラム提案	再就職支援プログラム試行	
教職調査 「教職免許状取得者のキャリアに関する調査」		アンケート調査・分析・報告書発行			プログラム評価
			新プログラムの提案・再就職支援プログラム試行		
企業調査				アンケート調査/インタビュー調査・分析・報告書発行	
データアーカイブ		日本女子大学卒業生調査データ化	データアーカイブの運用と拡充		
シンポジウム	「災害復興と女性の自立」	「女性の再就職支援と大学の役割—国際的経験の交流」	「女性の活躍推進に、いま何が求められているのか」	国内シンポジウム	国内シンポジウム(プロジェクト成果報告)
ワークショップ・研究会	「SPSSで学ぶ統計分析入門」(前期)	「SPSSで学ぶ統計分析入門」(後期)	「SPSSで学ぶ統計分析応用」(1)	「SPSSで学ぶ統計分析応用」(2)	「SPSSで学ぶ統計分析応用」(3)
プロジェクト報告書			中間報告書発行		最終報告書発行

リカレント調査より

日本女子大学リカレント教育課程修了生を対象とした「女性のキャリア支援と大学の役割に関する調査」を実施しました。リカレント教育課程とは、女性の再就職支援を目的とした教育プログラムで、2007年9月よりその前身がスタート、調査時の2013年3月時点で、140名の修了生を輩出しています。リカレント教育課程が、受講生にどのような影響をもたらしたか、その一端をご紹介します。

詳細は「女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究」研究成果「女性のキャリア支援と大学の役割に関する調査」報告書をご覧ください。



教職調査より

女性の就業に資格が重要であることはよく知られています。なかでも教職免許は、多くの大卒女性が取得しています。教職免許を取得した人の卒業後のキャリアを探るために、2012年5月~8月に「教職免許取得者のキャリアに関する調査」を実施しました。対象は本学を1991年~2001年の間に教職免許を取得して卒業し、かつ同窓会に登録している2997名(国内居住者のみ)。回答者数は684名(うち有効回答683名)です。

詳細は「女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究」研究成果「教職免許取得者のキャリアに関する調査」報告書をご覧ください。

日本女子大学卒業生数・教員免許取得者数(学部のみ) (単位:人)

年度	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001
卒業生数	1040	1299	1562	1380	1556	1269	1359	1448	1420	1432	1342
免許取得者数	322	335	351	287	293	293	267	288	295	237	283

(教務・資格課、西生田学務課作成)

